

令和 6 年 5 月 29 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H00544

研究課題名（和文）ベトナム出身労働移民との共生を見据えたベトナム語教育に関する研究

研究課題名（英文）Research on Vietnamese language education aimed at coexistence with Vietnamese immigrant workers

研究代表者

清水 政明（Shimizu, Masaaki）

大阪大学・大学院人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・教授

研究者番号：10314262

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,100,000円

研究成果の概要（和文）：国際ベトナム語能力試験（International Vietnamese Proficiency Test）が依拠する国際評価基準を基礎に据えつつ、日本で急増するベトナム出身の自律的労働移民との共生を見据えた、日本語母語話者に相応しい入門から初級レベルのベトナム語習得を支援する手法を構築するための基礎的研究を行った。想定される学習者にとって最低限習得が必要と考えられる発音、語彙、文法の学習項目を抽出し、ベトナム語コミュニケーションに欠かせない待遇表現に加え、文化背景にも配慮したカリキュラムを作成し広く公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本で急増するベトナム出身の自律的労働移民と言語を通じていかに良好な関係を築くかを課題とし、学習者として、多くのベトナム人労働者を雇用する立場にある日本人、あるいは共に働く日本人を想定した。研究の先行するサバティカル日本語の知見を参照しつつ、限られた時間内で習得可能なカリキュラムを構築した。この研究が提案する手法は、その実用性のみならず、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に明記される「複言語・複文化能力（Plurilingual and Pluricultural Competence）」の育成にも有用と考えられる。

研究成果の概要（英文）：A fundamental study was conducted to develop methods that support Japanese native speakers in acquiring introductory to beginner-level Vietnamese. This is in anticipation of coexistence with the rapidly increasing number of self-reliant Vietnamese labor immigrants in Japan, while basing the approach on the international evaluation standards followed by the International Vietnamese Proficiency Test. The study identified essential learning items for pronunciation, vocabulary, and grammar deemed necessary for the assumed learners. Furthermore, a curriculum that includes essential communicative expressions in Vietnamese, as well as cultural considerations, was created and made widely available.

研究分野：外国語教育

キーワード：ベトナム語教育 ベトナム出身労働移民 国際ベトナム語能力試験 初級準備段階

1. 研究開始当初の背景

(1) 2019年6月末当時の法務省の統計では、日本における在留外国人を在留資格別に見た場合、特に増加しているのが在留資格「技能実習」であり、約36万人が日本に在留し「留学」(約33万人)を上回っていた。国籍別に見るとベトナムが約19万人と全体の約51%を占めるという状況であった。その後、在日ベトナム人の人口は益々増加し、今や56万人を上回っている。したがって、彼らの生活基盤を整備することは急務であり、特に司法・医療・教育分野を中心とするコミュニティ通訳の需要が高まっていた。同時により日常的な問題として、例えば技能実習生を受け入れた企業側が彼らといかに潤滑なコミュニケーションを取るかという問題も喫緊の課題として浮上していた。コミュニティ通訳については様々な試行錯誤が繰り返され、養成講座の開講、OJTによる人材育成、専門家を交えた質の評価等が実施され現在も継続している。一方、日常生活場面(特に職場など)におけるコミュニケーションの問題は依然存続しつづけており、時にはそれが大きなトラブルの種となっている。そのような背景の中、まず日本語教育の専門家が「わかりやすい日本語」「やさしい日本語」を提唱し始めた。その理論的・実践的側面からの考察として、例えば細川(2012)等の研究が始まり、その対象を在日ベトナム人労働者に限定し考察したのも徐々に生まれてきた(道上2020)。同時に、従来「サバイバル○○語」というと、「低レベルの外国語能力」とマイナスイメージで捉えられがちであったが、それを再評価し積極的に習得と利用を促そうとする動きが生れてきた(鹿嶋2005、等)。特に企業内における「サバイバル外国語」の重要性は、CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に明記される「複言語・複文化能力(Plurilingual and Pluricultural Competence)」実践の典型的な例として注目されていた(久保2016、等)。また学習者が多く、一定程度の学習機会が確保される「メジャーな外国語」はそれなりに教材開発も進んでおり手軽に学ぶ機会にも恵まれていたが、いわゆる「マイナー外国語」(Less Commonly Taught Languages)は事情が大きく異なり、残念ながらベトナム語は現在でもまだ後者に位置づけられている。一方、日本におけるベトナム語の研究・教育は徐々に広がりを見せつつあるのも事実であり、ベトナム語の独習用教材や語学学校のコースも増えつつあった。ただ、学術的な理論に基づき、初級準備段階のベトナム語を習得するための効果的な手法が提案されたことはまだなく、日本人を対象としたものは皆無といっても過言ではなかった。従来のベトナム語教育・習得に関する研究は、それを専攻とする学習者、あるいは一定時間をその学習に費やす条件を有する学習者に限定されており、限られた時間内に学習が可能で、実際に職場で使える教材の類いは皆無に等しかった。

(2) 上述の通り、CEFRにおいて、サバイバル外国語に相当する言語能力は「複言語主義(Plurilingualism)」に則った言語能力と位置付けることができる。研究代表者は、ベトナムにおける日系企業での言語使用状況の調査を通じて、CEFR(2001)第8章「言語的多様化とカリキュラム」において定義される「複言語・複文化的能力」(複数の言語を用いる力(ただし力のレベルはさまざま)と複数の文化の経験をもつことで、社会的なエージェントとして、コミュニケーションおよび相互文化的インターアクションに参加するための、一個人の能力を指す。そしてこの能力の存在のあり方は、複数の能力が縦列または並列しているのではなく、複雑でより複合的に存在している。)の習得方法について考察したが(清水2018)、その結果、「○○語に関するある体系立てられた言語知識」に加えて、「○○語も知っている」というコミュニケーション能力の重要性を主張するに至った。言い換えれば、一個人が習得すべき言語能力は、シラバスに則って体系的に習得された言語知識のみならず、それと同時に、あるいはそれに代わりうる、必要な場面で自然に習得された断片的な言語知識もありうるということである。そして、企業内における潤滑なコミュニケーションの一部を、そのような言語知識が大いに担いうることを主張するに至った。

2. 研究の目的

- (1) 以上の背景の下、本研究は「初級準備段階のベトナム語」の習得方法について考察し、提案することを目的とする。
- (2) 学習時間が少ない日本人でも習得を可能とする手法を提案することにより学習者を増大させ、日本における日本人・ベトナム人間の良好なコミュニケーションを実現する一助とすることを旨とする。
- (3) それを国際的な評価基準として国際ベトナム語能力試験(International Vietnamese Proficiency Test)が依拠する基準の「初級レベル」に繋げるような工夫を施すことを目指す。

3. 研究の方法

- (1) 教室内習得ではなく自然習得に近い形で日本語と典型的特徴の著しく異なるベトナム語を習得する方法について考察した。初級準備段階における要は、やはりベトナム語の発音習得が重

要な位置を占める。日本語母語話者にとってのベトナム語の発音習得の困難については、逆にベトナム人学習者に日本語の発音を教える際の困難について述べた最新の研究成果（金村・松田 2020）を見ても容易に想像がつく。その差異は個々の音素とその音声的実現のレベルから、音節構造及び音節同士の結びつきの度合いに至るまで大きく異なることが見て取れる。しかし、その差異を十分理解した上で、我々が見出すべき事実は、それらの差異の中でもどの特徴に注意すればよりベトナム語らしい音声が生産可能かを探ることである。日本人にとって習得が困難と言われる声調を例にとってみても、確かに先行研究が指摘するように、ベトナム語には喉頭の緊張を重要な弁別特徴とする 2 種の声調素が存在し、とかくその喉頭特徴に学習者の注意を促しがちであるが、実際の音声的实现を観察すると、それらに付随するピッチの屈曲が明らかに存在する。それに基づいて北部標準語の 6 種の声調（促音節を除く）を観察すると、ローマ字「Z」で表現できるようなピッチパターンにほぼまとめることができる。つまり、初級準備段階では細かい差異を取捨し、まず一文内における高平（ngang 調）、低平（huyền, hỏi, nặng 調）、上昇（sắc, ngã 調）を意識して発音するよう促すことで、相当程度ネイティブに近いピッチパターンを再現することができる。このような実践的な事実をまずは短時間で習得し、そこから徐々にネイティブらしい発音として喉頭特徴なり微妙なピッチの差異なりを、基本的な表現を学ぶ中で修正していくという手順を考える。また、同様の工夫を、発音のみならず文法、待遇表現、文化的背景を考慮した表現に広げてゆく手法を考察する。

(2) 個々のベトナム語学習の目指すべきレベルと相応の学習内容を明示する。現在利用可能なベトナム語習得評価レベルについては、ベトナム国内外様々なものが存在するが、中でも台湾国立成功大学ベトナム研究センターが策定し、現在国際ベトナム語能力試験として実施されている試験のガイドラインとされるレベル別習得度が、CEFR に準拠しつつ大枠が策定されており、信頼に値する。本研究ではこれを基礎としつつ、「初級（A1）レベル」の前に更に「入門レベル」を設定し、その内容を学習項目と共に示す。

(3) 以上に基づき、対応する教材の開発を行う。上述の通りコンテンツそのものの開発に加え、個々の学習項目をいかに無理なく習得できるようにデザインするかを考察することになる。その前提として、まず研究蓄積がある「サバイバル日本語」の研究並びに教育の実態を調査する。また、実際にどのようなコミュニケーション場面が想定されるのかを分析するべく、関連機関におけるベトナム出身労働移民の実態調査を行う。

4. 研究成果

(1) サバイバル日本語の調査については、論文・教科書・会議録要旨集・研究技術報告書・動画コンテンツに分類しつつ過去の研究蓄積を整理し、ベトナム語教育に参考可能なコンテンツを参照しやすい形にまとめた（細河・柿木 2022）。

(2) ベトナム出身労働移民の実態調査については、実際に関連機関に赴き、そこで活動するベトナム出身者、並びに彼らと日常的に一緒に活動する日本人スタッフの実態調査と情報収集を行うことができた。また、その成果を日本語教育の観点から論文の形にまとめ、ベトナム語習得の必要性を再確認するに至った（近藤 2021）。

(3) 学習項目のレベル設定を行うに先立ち、国際ベトナム語能力試験の調査を行った。日本における運営に積極的に関わり、これまでの当該試験受験者に関するデータを、個人情報保護に十分留意しつつ収集し分析を行った。3 年間の結果を分析することにより、初級準備段階に相応しい教示内容の確認を行った（Shimizu 2024）。

(4) 初級準備段階の能力として 4 技能をいかに設定するかを考慮しつつ、語彙集等教材作成の基礎となる言語データを整理し、まず、初級レベルの語彙集、文法項目リスト、並びに会話集を作成した。データ整理に当たっては、その一部を初級準備段階で利用することを前提に、初級レベルのデータとして包括的に整理した（清水・Nguyen・Pham 2022 等）。

(5) 日本人がベトナム語のような単音節を基盤とする孤立語を習得する際、発音の困難さに加えて指摘されるもう一つの困難さは、語彙習得である。そこで、単音節の形式と意味を関連づけて記憶することを助ける重要な要素となるのが、共通の言語財である「漢語」である。漢語起源語彙については、漢字とその読みが、形式・意味ともに日本語の漢語と関連付けることで記憶が助けられる可能性がある。一方、漢語以外のベトナム特有の語彙の場合、個々の語彙の音と意味を関連付けて記憶することが至難の業となる。そこで、やはり同じ漢字文化圏の言語であることを活かし、かつてベトナムで用いられた、ベトナム語を表記するために漢字を改良して作製されたチュノムという文字の字形を示すことにより学習者の記憶を助ける方法について探った。結果、学習者の学習条件により、文字を介さず音声のみでの習得を求める声があったため、ベトナム語の音と漢字の音読みが音声的に近いものに関しては、相当する漢字を示す程度に留めるのが効果的という結論に達した。文字を必要とする学習者も一定数いることが予測されるので、多様な需要に対応するべく、その示し方等について今後も検討を続けたい（Shimizu 2022）。

(6) ベトナム語の日常会話表現（挨拶文など）、名詞述語文、動詞述語文の肯定・否定・疑問文の形を、ベトナム語の待遇表現に大きく関わる人称代名詞に留意しつつ、難なく習得できる教材、漢字系文字を利用したベトナム語語彙の習得支援、また人称代名詞の効果的な学習に関して検討し、その成果の一つとして NHK ラジオ講座「仕事とくらしのベトナム語」を担当した。ラジオ講座の骨組みとなるシラバスは、以下の通りである。

1. 名詞述語文
2. 動詞述語文
3. 一般疑問文
4. コピュラ文疑問文
5. 命令・禁止の表現
6. 事物の状態を問う疑問文
7. 事物の状態を陳述する文
8. 日常生活で用いる表現（朝・昼・夜・別れの挨拶、名前・出身の言い方、安否確認）
9. 感情表現

発音に関しては、ローマ字を見てある程度予測できる音については敢えて説明を加えず、日本語のローマ字表記から類推できない有気・無気閉鎖音などの説明にとどめた。また声調に関しては、高平・上昇・低平の3つのピッチパターンの習得に努め、低調の声質の差異（特に hỏi 調と nặng, ngã 調の差）については学習が進んだ段階で徐々に区別を促すこととした。また、会話コンテンツとして、日本人上司とベトナム人従業員との会話を想定し、従業員の家族を気遣う表現（家族の安否を尋ねる、誕生日を祝う）、またベトナムの暦にしたがった祝いの表現等を例文として示した。

(7) 国際ベトナム語能力試験の評価基準で「初級レベル」とされる段階への準備段階として相応しい試験の問題サンプルを作成した。

<引用文献>

- 鹿嶋恵、初級準備段階としてのサバイバル・ジャパニーズのシラバス検討、三重大学留学生センター紀要(7)、2005、35-48
- 金村久美・松田真希子、ベトナム人に日本語を教えるための発音ふしぎ大百科、ひつじ書房、2020
- 久保田竜子、アジアにおける日系企業駐在員の言語選択：英語能力至上主義への疑問、ことばと社会：多言語社会研究(17)、2016、81-106
- 近藤美佳、ベトナム人技能実習生の受け入れ、技能実習生と日本語教育、大阪大学出版会、2021、151-168
- 清水政明、カップリング・インターンシップ(CIS) プログラムとその外国語教育における役割—複言語主義的コミュニケーション能力の養成を目指して—、ハノイ大学第3回国際シンポジウム「グローバル化時代における日本語教育と日本研究」、2018年10月18日
- 清水政明・Nguyen Thi Phuong Lan・Pham Phi Hai Yen、2021年度言語研修「ベトナム語」研修テキスト1 ベトナム語文法、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2022
- 細川英雄、「ことばの市民」になる：言語文化教育学思想と実践（日本語教育学研究）ココ出版、2012
- 細河沙羅・柿木重宜、「サバイバル日本語」と今後の展望、語源研究(54)、2022、1-19
- 道上史絵、ベトナム人技能実習生の日本選択の背景にあるものと日本語に対する意識 - 現地送り出し機関におけるアンケート調査から見えるもの - 、日本語・日本文化研究(30)、2020、121-132
- Shimizu Masaaki、Dạy tiếng Việt qua thơ Nôm Lục Vân Tiên của Nguyễn Đình Chiểu ở Đại học Osaka, Nhật Bản、Truyện thơ Nôm Lục Vân Tiên tác giả Nguyễn Đình Chiểu song ngữ Việt Hàn、2022、281 ~ 291
- Shimizu Masaaki、Phương pháp giảng dạy và đánh giá năng lực tiếng Việt tại Nhật Bản: trường hợp Đại học Osaka (Nhật Bản)、Tọa đàm quốc tế nghiên cứu và giảng dạy tiếng Việt cho người nước ngoài、2024年2月24日

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Shimizu Masaaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Day tieng Viet qua tho Nom Luc Van Tien cua Nguyen Dinh Chieu o Dai hoc Osaka, Nhat Ban	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Truyen tho Nom Luc Van Tien tac gia Nguyen Dinh Chieu song ngu Viet Han	6. 最初と最後の頁 281 ~ 291
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 柿木 重宜	4. 巻 117
2. 論文標題 言語学者藤岡勝二の音声中心主義思想とその淵源について：アルタイ諸語研究とローマ字化国語国字運動を通して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 研究論集 = Journal of Inquiry and Research	6. 最初と最後の頁 179 ~ 196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18956/00008075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 清水政明	4. 巻 -
2. 論文標題 ベトナム語と「クオックグー」 現代ベトナムの言語と文字の成り立ち	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 現代ベトナムを知るための63章 第3版	6. 最初と最後の頁 65 ~ 69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 柿木重宜	4. 巻 52
2. 論文標題 日本語系統論の解明の可能性と今後の展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 語源研究	6. 最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柿木重宜	4. 巻 115
2. 論文標題 社会言語学的観点からみたローマ字化国語国字運動 「ローマ字ひろめ会」の実態を巡って	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西外国語大学研究論集	6. 最初と最後の頁 33-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 清水政明
2. 発表標題 ベトナムの文字 伝統と現代と
3. 学会等名 漢字文化研究所連続講座「東アジアの文字はいま」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 細河沙羅, 柿木重宜
2. 発表標題 「サバイバル日本語」と今後の展望
3. 学会等名 日本語語源研究会第9回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柿木重宜
2. 発表標題 明治後期以降の国語教育と言語学との関係性 通時的観点からのアプローチ
3. 学会等名 全国大学国語教育学会第142回2022年春季大
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 近藤美佳
2. 発表標題 公立学校内に設置されたベトナム母語教室活動における トランス・ランゲージングの実践
3. 学会等名 母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会 2022年度研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 清水政明
2. 発表標題 大阪大学外国語学部ベトナム語専攻の卒論指導と資料利用状況
3. 学会等名 日本ベトナム研究者会議2021年度研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 近藤美佳
2. 発表標題 公立学校における母語教室活動を学校に「開く」取り組み 母語教室公開イベント「タブカムDAY」の実践報告
3. 学会等名 母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会 2021年度研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shimizu Masaaki
2. 発表標題 Gioi thieu ve ki thi nang luc quoc te tieng Viet o Nhat Ban
3. 学会等名 International Workshop on International Vietnamese Proficiency Test (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 真嶋潤子、牟田和男、宋弘揚、道上史絵、トゥ トゥ ヌエ エー、近藤美佳、中谷真也、荒島和子、吉川夏渚子、藤原京佳、樋口尊子、平井一樹、岩城あすか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 432
3. 書名 技能実習生と日本語教育	

1. 著者名 清水政明、Nguyen Thi Phuong Lan、Pham Phi Hai Yen	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 166
3. 書名 2021年度言語研修「ベトナム語」研修テキスト1 ベトナム語文法	

1. 著者名 近藤美佳、内田トラム	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 53
3. 書名 2021年度言語研修「ベトナム語」研修テキスト2 ベトナム語会話	

1. 著者名 清水政明、平野綾香、近藤美佳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 72
3. 書名 2021年度言語研修「ベトナム語」研修テキスト3 ベトナム語語彙集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	柿木 重宜 (Kakigi Shigetaka) (00321050)	関西外国語大学・外国語学部・教授 (34418)	
研究分担者	近藤 美佳 (Kondo Mika) (20875091)	大阪大学・大学院人文学研究科(外国学専攻、日本学専攻)・講師 (14401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	夏目 長門 (Natsume Nagato) (90183532)	愛知学院大学・歯学部・教授 (33902)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 台湾国立成功大学・日本大阪大学外国語学部ベトナム語教育に関するワークショップ「ライティング・スピーキングの評価方法について」	開催年 2023年～2024年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
その他の国・地域(台湾)	国立成功大学越南研究中心		